

停留精巣患児における男性不妊リスクの層別化
 ～術前の血清ホルモン値から精子形成細胞数を予測する～

加藤 大貴 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 泌尿器科)

この度は第 31 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会学会賞を賜り、大変光栄です。選考をいただきました先生方、いつもご指導をいただいている教室の先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。

停留精巣では、幼少期に精巣固定を行っても、精子形成細胞数が少なく、また、適正に精子形成が分化しないため、将来男性不妊となる症例があります。その予測には手術時の精巣生検の組織所見が有用とされています。私たちは、精巣生検を行わず、簡便な方法で精子形成細胞数を予測できないか？と考え、精子形成をサポートするセルトリ細胞が分泌するホルモンに着目しました。(内容が複雑ですのでごく簡潔に結果を述べますと、) 両側停留精巣の症例において、血清ホルモン値から精子形成細胞数を予測することが可能であり、停留精巣患者の早期治療介入の目安や男性不妊リスクの層別化の一助になることが示唆されました。本研究結果は Journal of Urology 2022 に掲載され、AUA News や科学新聞に取り上げていただいた際は、感極まる思いでした。

本受賞を励みとして、引き続き精進して参る所存です。今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

Blood Biomarkers to Predict Future Infertility in Boys with Undescended Testis

